

秋が深まってくると急に忙しくなる。長い長い冬に備えて冬支度をしなければならぬのだ。まずは、薪ストーブの薪を木熊を解体して玄関の脇の軒下とか縁側に積み直す必要がある。我が家が一冬で使う薪の量は、あくまで補助暖房と調理用なので四立方メートルほどになる。薪の重さは木の種類や乾燥状態によって違ってくるがおおよそ一立方メートル当たり六百キログラムとすると、二・四トンになる。それをネコという一輪車の台車に積んでは移動して積み直すのだ。単純な作業の繰り返しだが、「今年の冬はどんな冬になるのかな。寒い冬になるという予報もあるので少し多めに高く積んでおくかな。」とか、「今年買った角食用のパン型を使って薪ストーブで焼いてみよう。」とか思いながら一本一本薪を積むのは、そう苦にならない。

冬囲いもこちらではきちんとしておかないと雪で枝が折れてしまう。それに野ネズミに樹皮を丸裸にされて枯れてしまわないように対策もしなければならぬ。去年は厚いシートで根元を包みそれを地面に沿って広げて杭で固定してネズミが侵入できなくしてみたが、結果的にあっけなく突破されてしまった。今年は、どんな対策をとるかそろそろ考えておかなければならない。頼りにしているMさんもネズミとアライグマにはお手上げだと言っている。罠を仕掛けて捕獲するのが確実だとのことだが、捕獲したあとどうするのか。あの可愛らしい顔を見てしまったらなかなか決断はできない。薬剤の入った餌を使うというのもあるが、他の動物が口にしてしまわないかと悩ましい。そのうち、ネズミの方で根負けしてくれば良いのだがそんなことはあるまい。

あとは、大きな外テーブルの片付けがある。一応作る時に分解できるようにしてあるのだが、とにかく大きくて重い。去年は横着してそのままの状態を冬を越せないかと思ったが、神様は甘やかしてはくれなくて過去最大の積雪をプレゼントしてくれた。おかげで、テーブルが雪の重みで歪んできてしまったので、掘り出して片付けざるを得なかった。かえって暑く積もって凍りついてしまった雪を掻き出すだけで余計な苦勞をすることになってしまった。今年はちゃんと分解して縁側に積んでおかなければならない。

それに、この時期にぼうぼうと生えて枯れたススキを刈って敷地内の園路に敷いておくと、雪解けの際に園路の位置がわかりやすくて春の作業がしやすくなる。これも園路の総延長が二百メートル以上になるので相当な作業になる。大きなブルーシートを広げ、そこに刈ったススキをできるだけ多く積み上げてシートで包み、えいやつと頭の上に担ぎ上げて園路の先に運び徐々に敷いて行く作業を繰り返す。これを何度も繰り返すのだが、薪の時のように先々の楽しみが思い浮かばないので結構な苦行となる。

こんな感じで冬が近くなるとやる事が多くある。一応、健康管理のために体脂肪なども測れる体重計でチェックしているのだが、秋が一番シェーパアップされる。ついで、外仕事が再開される春、そして雪かきの冬の順になる。リバウンドするのは夏だ。暑くて外作業は最小限になってしまう。

